厚生労働省　造血幹細胞移植医療体制整備事業
令和８年度　　造血幹細胞移植推進拠点病院　四国ブロックセミナー

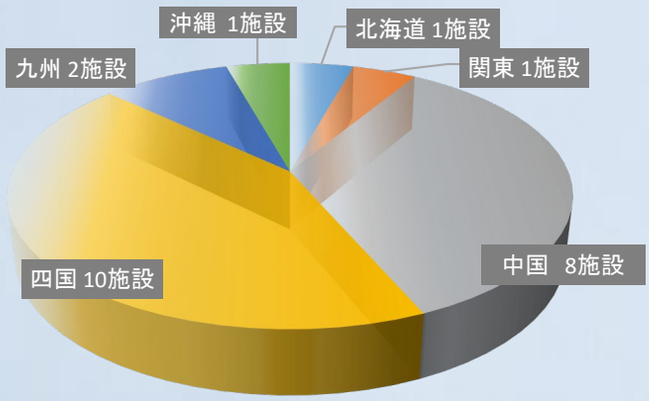
移植患者を感染から守る

-医師・感染管理認定看護師・移植病棟看護師が語る-

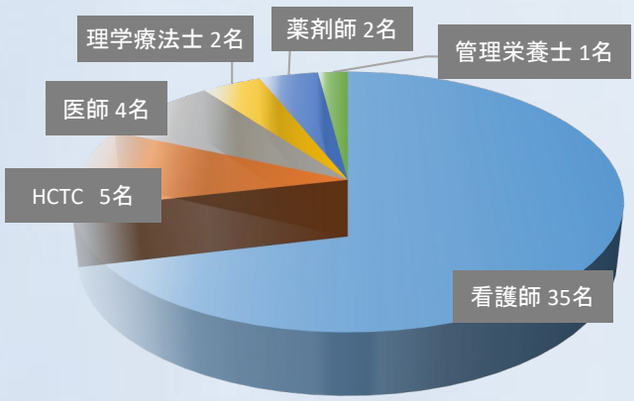
9/19(土)
10:00～11:35
開催報告

開催方法:Zoomを使用したweb開催
参加者　：　49名
参加施設：　23施設
ブロックを越えて多くの方々にご参加いただきました。

【参加施設】



【参加職種】



移植後感染症をどう診る？ 実践的アプローチ

東京都立病院機構　がん・感染症センター 都立駒込病院
森 悠記先生

移植後感染症の管理においては、移植後の日数や免疫再構築の段階から、その時期に起こりやすい感染症を予測することが重要です。さらに、ステロイド使用の有無、GVHDの発症、ドナーソース、HLA適合度など、患者ごとのリスクを総合的に捉え、予防や治療につなげていく必要があります。

講演では、細菌・真菌・ウイルス感染症について、それぞれの特徴や発症リスク、予防、診断、治療のポイントを取り上げ、実際の臨床場面をイメージしながら理解を深めました。特に、発熱や下痢、呼吸器症状などの一見わずかな変化から感染症を疑い、必要な検査や治療へ速やかにつなげることの重要性が印象的でした。

また、感染症対策の基本となる「予防」に加え、患者の「何か変」に気づく感度と迅速な行動が重要であることにも触れられ、移植後の経過や患者背景を多職種で共有しながら、感染症のリスクを予測していく視点を学ぶ機会となりました。

見えない感染経路を制御する
～空気・環境・デバイス管理から考える感染対策へ～

社会医療法人北楡会　札幌北楡病院
感染対策室　感染管理認定看護師　　長倉 竜也先生

感染対策では、感染成立の要因と感染経路を理解し、その連鎖を断ち切ることが重要です。講演では、造血細胞移植患者を取り巻く環境に着目し、空気を介する感染や接触を介する感染について、防護環境の考え方や手指衛生、環境清掃、水回りの管理など、日常の環境整備における具体的な対策が紹介されました。

また、血管内留置カテーテルを介した感染について、カテーテルの外側・内側からの汚染経路を整理し、ニードルレスコネクタの消毒やアルコール含有キャップの導入など、血流感染を減らすための取り組みが紹介されました。実際の病棟でのデータを示しながら、対策導入後に血液培養陽性率が低下したことにも触れ、具体的な感染対策の効果について考える機会となりました。

さらに、感染対策を個人の知識や手技だけに頼るのではなく、器材やシステムを活用して「人に頼らない仕組み」をつくることの重要性も示されました。目に見えない感染経路を可視化し、その経路を断つという視点から、日々の感染対策を見直すきっかけとなる講演となりました。

当院における移植時の感染対策と患者指導の実際

社会医療法人北楡会　札幌北楡病院
第５病棟　副看護科長　　佐藤 聖奈先生

造血細胞移植後は長期にわたり感染症のリスクが続くことから、移植前から継続した感染予防が重要となります。講演では、予防薬の使用やカテーテル感染対策、無菌室での環境管理、清潔保持、口腔ケアなど、移植時の感染対策について具体的な実践例が紹介されました。

患者・家族への指導では、移植前から感染予防行動を伝え、移植中も患者の体調に合わせて継続できるよう支援していることが紹介されました。退院に向けては、自宅の清掃や外出時の注意点など、生活環境を踏まえた具体的な指導も行われています。

また、寝具の交換や一人暮らしでの清掃、食品の保存など、退院後の生活で生じる疑問に対し、患者の生活背景や状況に合わせて実行可能な方法を考えることの大切さが示されました。基本的な感染予防策を継続するとともに、患者一人ひとりの生活に合わせて支援する視点を学ぶ機会となりました。

移植患者の感染管理について幅広く学ぶとともに、日常業務で感じている感染対策への疑問や課題についても多くの質問が寄せられ、参加者の関心の高さがうかがえる機会となりました。

造血幹細胞移植推進拠点病院
愛媛県立中央病院